

齋田 良知

さいた よしとも
スポーツサイエンスの確立に奮闘する、最先端再生医療の第一人者

文 高橋 誠

text by Mac Takahashi

医療・健康コミュニケーション

順天堂大学 医学部 整形外科科学講座
准教授 齋田良知(さいた・よしとも)
医師は、「PRP治療」の日本の第一人者。PRP治療とは、患者自身の血液から「多血小板血漿」を遠心分離器で抽出し、傷めた関節部分に注射する治療法です。血小板の成長因子が持つ組織修復能力を利用し、私たちに本来備



2016年、イタリアミラノ・ガレアッツィ病院の同僚と。2人はACミランのドクター。

ドクター」が目ざされています。イタリアのプロサッカーチーム「ACミラン」に1年間留学した齋田医師は、予防や救急意識の高さなど日本との違いを痛感しました。ジュニアチームの練習にも毎日ドクターが帯同し、日常的なけがから心臓発作や脳震盪まで対応します。整形外科領域でも、欧州では腰痛などの痛み鎮痛薬や注射を安易に処方せず、リハビリをメインに痛みの原因を治し、改善しない場合に手術を検討します。そのため欧州では理学療法士が人気で、大学入試は医学部よりも難しいと言われています。

スポーツサイエンスを、アスリートから高齢者まで幅広く活用

わっている「自然治癒力」を促す最先端再生医療です。米大リーグの田中将大投手、大谷翔平選手が取り入れ話題になりました。2011年の導入以来「6割には有効」とのエビデンスを蓄積し、順天堂医院PRP外来は1年先まで予約で一杯です。
東京五輪を機に、アスリートの健康とパフォーマンスを支える「スポーツ

イタリアから帰国後、「いわきFC」のチームドクターに就任した齋田医師は「遺伝子・血液検査によるデータ分析、エビデンスに基づくトレーニングと食事メニュー」を実践。傘下のジュニアチームでは、中高生の体質と栄養状態を見極め、効率的にフィジカルを強化しています。「いわきFCクリニック」



2015年11月、アジアサッカー連盟メデイカルカンファレンスにて、第1回 AFC Young Medical Officer Award を受賞、表彰を受ける齋田医師(中央)

Profile

医療・健康コミュニケーション。慶應義塾大学経済学部卒。ミスノスポーツ、リクルート、米国西海岸最大の製函会社(LA12年)にて広報宣伝のキャリアを積み、ゴルフ場経営(山梨2年)、学校法人慈恵大学広報推進室長(東京16年)を経て、現職にて医師・研究者とメディアをつなぐ。医系シンクタンク「湾岸下町ライフデザイン戦略会議」、有識者ユニット「海医会」主宰。趣味はゴルフ、ワイン(JSA認定ワインエキスパート#58)。

ダイヤモンドオンラインで「森田療法を活用するバイオニア医師たち」連載中。

